

若手教員における問題共有解決システムの取組

Developing System for Sharing and Solving the Problems of Novice Teachers

安藤輝次*

三木達也**

Terutsugu Ando

Tatsuya Miki

奈良教育大学大学院教育学研究科教職開発専攻* 姫路市立南大津小学校

School of Professional Development in Education, Nara University of Education*
Minami-Ohtu Elementary School**

<あらまし> 団塊の世代の教員が大量退職し、若手教員を指導する教員が不足している。若手教員の間でも、最近では、互いに腹藏なく気軽に悩みを出し合い、問題を共有し、解決を図ろうとすることが苦手な傾向がある。本研究は、このような問題に対して、インターネット上で若手教員たちが互いに悩みを吐露し、時にはメンター教師が助言や提案をしながら、力量形成をしていくためのシステムを開発しようとした。その成果としては、電子掲示板を活用すると、若手教員は、自分のよさや課題に気づくことができ、教材づくりや指導案作成にも協力し、その結果を授業観察で確かめる過程で自分の経験を省察し、教職に対する思いを新たにしたり、多様な考え方に触れて、じっくり考える力を養うことができるようになったことを挙げるができる。

<キーワード> 若手教員 教員研修 教職の悩み 学習指導案

1. はじめに

新任教員のAさんは、4月最初の2週間が終わった時、「仕事の量が多くて、何をどうすればいいのかわからなくて。こんなに忙しいとは全然思っていなかったの、びっくりしました。」と言う。初任者研修を受け、報告書作成にも時間を取られ、午後9時過ぎの帰宅後でさえ、持ち帰り仕事として掲示物づくりや教材研究などに長時間を割かれる。

「なぜこんなに時間が足りないのか・・・教職を辞めようか」と思い詰めていた9月初旬、大学の研究室の教授が先輩教員と一緒に食事会に誘ってくれ、そこで彼らも同じような問題に悩み、「絶対2年目から何か違う気がしますね」と声かけしてもらって、それ以来、他校の初任教員と辛いことや失敗したことを互いに話し合い、勤務校でも「もう少し周りに頼ってやっていこう」と思ってから、元気になっていった。

これは、「辞めたい・・・心をむしばむ日常：新人女性教師 苦悩と悲鳴」と題するTVのルポルタージュ（テレビ朝日「報道ステーション」2011年1月19日放映）である。

このような問題は、本人自身の力量に起因するだ

けでなく地域や学校・学級に特有な状況あるいは初任者研修の在り方など様々な原因が考えられよう。しかし、その問題解決の一つの方途は、同じ初任教員同士や年齢的に近い若手教員と不安や悩みを共有することに見出しうるのではないだろうか。

実は、本研究も同じような問題意識から着手した。もっと若手教員の悩みを拾い上げ、そこから彼らの力量を見定め、適切なメンタリングを行いながら、彼らの授業力を高めたい。とは言え、特定の学校内で特定の若手教員たちがネット上で自らの悩みを吐露し、互いに励まし合い、時には年配の教員の指導・助言を受けるという協働探究の過程で、ストレスを軽減させ、学びを深めていくというような研究は、筆者の散見するところ見当たらない。先行研究がないから、前述のようなルポルタージュがニュースで紹介されたりするのであろう。

このような若手教員の研修上の問題を解決するために、私(安藤)は、Google グループで特定の会員のみを対象に問題をやり取りし、解決ができるのではないかと考え、ホームページを立ち上げ、教員研修で長年関わってきた姫路市立南大津小学校の三木達也教諭に試用してもらおうようお願いした。

しかし、後述するように、この試みは数カ月でうまくいかないことが明らかになり、代替案として、

サイバークラウンジと称する電子掲示板方式としてサンプルを添えて提案し、結果的には、Google グループのホームページと併用しながら若手教員研修を行った結果、一定程度の成果を得られたように思う。ただし、本研究は、一つの学校で一定の期間において実施した試みであって、まだ解決すべき問題も多い。諸賢のご批判・ご批評を賜りながら、今後一層よりよいものにしていきたいと思う。

なお、本稿で取り上げた“若手教員”とは、非常勤教員も含めて教職3年目までの教員4名であり、A先生、B先生などすべて匿名で取り上げた。

(安藤輝次)

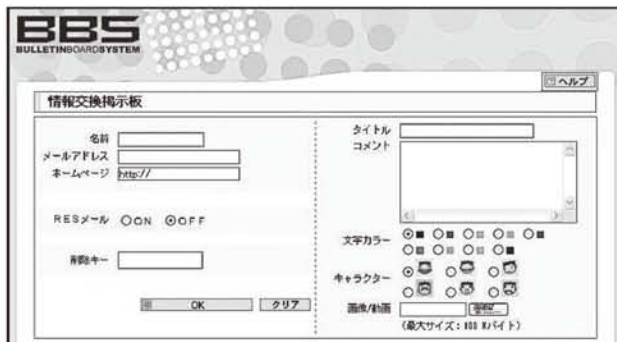
2. サイバークラウンジとしての学校内掲示板

Google グループの活用については、ログインするまでの手順が煩わしい。加えて、職員室にある校務用のコンピュータでは、一部の機能が制限されるなど機能上の問題が障害になる。したがって、2学期以降は、Google グループではなく、もっとシンプルに扱えるイオネットの電子掲示板を使うことにした。

2. 1. 電子掲示板の機能

学校内外から書き込み可能にするため、一般のプロバイダーサーバー領域に掲示板を設置した(図1参照)。そこでは、パスワードによってアクセス制限を設け、若手教員、校長、教頭、研修担当者である私(三木達也)、共同研究者の安藤輝次先生のみがアクセスできる設定にした。

図1. 電子掲示板のトップページ



そして、次のような掲示板の運用のルールを設けて、研修担当である私が実質的な管理をして、活用することとした。

- ① 新しい話題や問題を投げかける場合は、掲示板トップページから新規項目として投稿する。
- ② 投げかけられた話題や問題に返信する場合は、その記事に対する返信として投稿する。
- ③ 画像ファイルの添付は可能であるので、必要に応じて活用する。
- ④ 文書ファイルの添付はできないので、Google

グループを活用して配信する。

なお、①～③については、掲示板のヘルプ機能で詳しい紹介をしているため、それを生かして研修を行った。

2. 2. 電子掲示板の活用状況

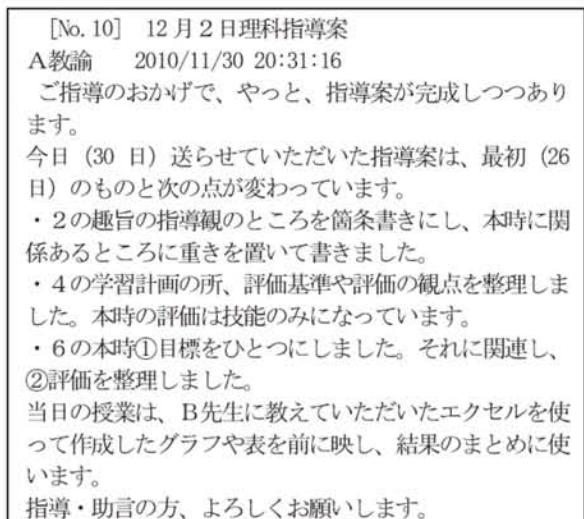
前節で述べたように、私たちは、Google グループの失敗経験から、若手教員の投稿を待っている、なかなか活発な意見交流を生み出すことが難しいことを学んだ。それで、今回は、電子掲示板の授業研究の指導案の検討及び事後の協議、学校行事等への取り組みについても電子掲示板を積極的に活用するように若手教員に働きかけた。その中で効果のあった取り組み事例を二つ紹介したい。

2. 2. 1. 学習指導案の検討と授業公開後の協議

教職経験3年目のA先生は、5年理科の単元「おもりが動くとき」の授業公開をすることになった。その時期は、11月下旬から12月初旬にかけてであり、音楽会とマラソン大会との合間を縫って実施することになったため、当該授業の学習指導案を十分に検討する時間がない。また、A先生の授業公開当日は、若手教員の中で校外への出張等の予定も入っており、全員が事後の協議に参加できない状況であった。

そこで、電子掲示板を使って学習指導案の検討及び公開授業後の協議の報告、参観者の意見や感想の書き込みをするように若手教員に求めた。次の電子掲示板は、A先生が自分なりに学習指導案を11月30日に作成した後、他の教員に意見を求めた際の内容である。

図2. 学習指導案に対する意見を求める呼びかけ



つまり、A先生の学習指導案づくりは、他の若手教員や研修担当の教員などの質問や助言を経て行われ、その都度、改善点を確認することができるため、

他の若手教員から、次に自分自身が指導案を書く際の参考になるという声が聞かれた。

そして、A先生の公開授業直後の12月2日、教職経験1年目のC先生からは、教科のねらいや指導内容だけでなく、授業展開や机間指導の様子などについて、次のような感想が電子掲示板に投稿された。

図3. 公開授業後の他教員の感想

[No. 10 - 4] Re: 12月2日理科指導案
C教諭 2010/12/02 21:46:25
たいへんおちついておられ、授業の流れもスムーズで、さすがだなあと関心させられました。私も見習わなければならないことが山ほどあって、勉強になりました。
ワークシートやパソコンを活用することで、子どもたちの考えが整理されてとても良かったと思います。また、グループの一人一人に役割があったため、だれもが活躍できる授業であったと思います。A先生の細やかな助言も、気づかされることが多く、とても良かったと思います。
自分が立てた予想と比べたり、協力して実験している子どもたちの姿がとても印象的でした。
ありがとうございました。

このようにC先生は、少しだけ経験年数の多い若手教員の授業を観ることで、自分自身が目標とする授業像を明確にするきっかけになり、特にグループ学習の充実化のためには日々の授業において子どもを鍛えることの大切さを実感したようである。もちろん、このような発言はA先生にとっても自信になることに繋がったことは間違いない。

また、学習指導案の事前検討の段階で「考察の時間を十分確保するための手だてを工夫する必要があるのではないか」という意見が出た。そこで、研修担当の私から表計算ソフトを活用するという提案をした。予め平均を求める数式を入力しておけば、測定した振り子運動の時間を入力するだけで正確な結果を得ること、プロジェクトで大きく写し出すことで、結果を書き写す時間を短縮させることができるのではないかと思ったからである。

その提案を受けて、シートへ数式を入力する作業を教職経験2年目のB先生が協力すると申し出てきた。次のコメントは、B先生がA先生の実験及び実験結果のまとめと考察の様子を参観した翌日の12月3日に寄せたものである。

図4. 公開授業に協力した若手教員の感想

[No. 10 - 5] Re: 12月2日理科指導案
B教諭 2010/12/03 21:16:43
エクセルを使われるということで、お手伝いをさせていただきました。どんなふうに活用されるのか少しドキドキしていましたが、あのようにスクリーンに映し出されて、児童がどんどん入力したりメモを書き取ったりしているのを見て、とても感心しました。また、最後の方の入力したデータがグラフになったところは、まさに一目瞭然でしたね。[中略]

細かいことですが、各班で実験をする際にタイマーを計る児童の観察位置が気になりました。五班の児童は、ふりこに対して垂直に体を向けて正確にタイマーを計っていたように思いますが、一班・四班の児童はふりこの真横や真後ろから計測していました。

本時のまとめをしてくださった際に、計測結果があまり変わらない理由を「ボタンを押すちよつとした差」とおっしゃっていましたが、事前に回避できる差（立ち位置）がなければ、より正確な結果が得られたように思います。[中略]

児童から自然に意見が出て、先生とのやりとりがとても印象的でした。しっかり話し合いもでき、自分の役割をきちんと果たそうとする姿は、さすが5年生！と思いました。

3学期の児童の様子が楽しみです。

ありがとうございました。

図5. A先生の理科の公開授業



このようにA先生とB先生が協力してシートを作成する過程で実験結果を数値として表すだけでなく、グラフ化するアイデアが生まれたようであり、その成果を共有することができたことは、両先生にとって大きな自信につながったように思う。また、B先生は、これまで高学年の担任経験がなかったが、A先生の5年理科のシート作成と授業参観を通して、「誤差を生む要因」の指摘にみられるように、高学年児のより細かな様子を観察できたようである。

そして、この二日後、A先生から次のような事後の協議の報告が投稿された。

図6. 公開授業に関する自己省察

[No. 10 - 6] 授業の反省
A教諭 2010/12/05 19:05:56
自分で最初から指導案をきちんと書いたのは初めてで、とても勉強になりました。[中略]
校長先生には、理科での科学的思考の重要性についてアドバイスいただきました。[中略]結果がなぜそうなったのか、なぜ予想と違っていたのかという視点で話し合うともっと、中身のある話し合いになっただろうと言われました。そうすることで、子どもたちの思考が深まることとなるということが分かりました。
次に、教頭先生には、子どもたちのクラスの雰囲気や学習態度についてほめていただきました。それが何より一番嬉しかったです。子どもたちは普段以上によく頑張りと、とても意欲的に実験を行いました。[中略]

今回の授業を通して、理科の実験は、B先生からご指摘いただいたように、やり方などの正しい指示がとても重要になってくると感じました。また、エクセルを使って結果の整理も勉強になり良かったです。

たくさんのことを勉強させていただき本当にありがとうございました。

このようにA先生は、今回の公開授業に対する良い評価を、「たくさんのことを勉強させていただき本当にありがとうございました」と喜びを持って受け入れ、改善点にも真摯に耳を傾け、今後の課題として受けとめることができたようである。同時に、その内容を他の若手教員も共有することで、それぞれの力を伸ばす取り組みになったように思う。

2. 2. 2. 地域行事への取組に関する研修

11月、本校と地域団体が連携した3世代交流事業（「夢プラン」と称す）として校区の歴史資産をめぐるウォークラリーが予定されていた。それに関連して、10月にまとめた教材となるDVDを作成する話が持ち上がった。

それで、若手教員には、夢プランの教材づくりの仕事を割り当て、地域の歴史資産に理解を深めようと同時に、ビデオカメラの扱い方やナレーションの挿入を通して視聴覚機器を取り扱う技能を身につけてもらおうとした。つまり、OJT (On the Job Training) の考え方を取り入れた研修である。

そして、動画の撮影やナレーションの録音の日時の調整や具体的な方法の打ち合わせについて、電子掲示板を活用した。その際に、研修対象の若手教員5名のうち、経験年数が最も長いA先生に、次に示すように、2回にわたってとりまとめをお願いした。

図7. 夢プランのビデオ撮り

[No. 5] 夢プランについて

A教諭 2010/10/27 22:16:21

夢プランの教材のビデオ撮りを行います。B先生と相談したところ、放課後は各自忙しく、暗くなるとビデオもとれませんので、3日にすることになりました。行ける方は連絡ください。お願いします。

図8. 夢プランの動画編集

[No. 5 - 1] Re: 夢プランについて

A教諭 2010/11/03 18:53:33

今日はお疲れ様でした。
まだビデオをとった段階でしたが、何よりみんなであれこれいながら、校区の場所が分かっていたのがよかったです。
明日編集のことなどを聞いてみましょう。
お疲れ様でした。

私や管理職教員の間では、すべてを若手教員に任せることは負担感が大きく、「研修の停滞につながるのでは」という心配もあったが、「できる限り任せて

みよう」という話になり、実施した。そこで期待していたのは、コミュニケーションをとる必然性が生まれるのではないかということである。そして、事実、職員室でも若手教員同士相談する姿が何度も見受けられるようになり、同世代同士が協力して一つのものを作り上げる楽しさ感じながら取り組んでくれているようであった。

また、私は、活動に対するねざらいや作業の方向性を示すために、研修担当者として、例えば次のような記事を投稿した。

図9. DVD作成に対する研修担当者の方向付け

[No. 5 - 3] Re: 夢プランについて

D教諭 (研修担当) 2010/11/04 01:41:13

ビデオ撮影に参加された先生方、ご苦労様でした。校区の中であっても実際に歩いてみないと分からないものですね。

実際に歩いてみて校区の様子を知ることが、地域を知ることにつながり、地域で暮らす子どもたちの育ってきた背景を知ることにもなります。

足でかせぐことの大切さを実感してもらえたようで嬉しく思います。[中略]

今後は、編集に必要なナレーションの録音をしてもらうこと、録音時間に対して動画の撮影時間が十分であるかをチェックしていただくことが大きな仕事となります。よろしくお願いたします。

DVD作成は、日々の授業実践を行いながらの作業となるため、全員が一斉に取り組むことは難しいので、互いに役割分担をして各自で作業を進める姿が見られた。その中で、編集作業の詳細については、視聴覚教育に造詣の深い上村富男校長先生に直接指導を仰ぎ、次に示すように、その内容を電子掲示板でフィードバックする内容も投稿されるようになった。これは、協力して一つのものを作り上げる姿勢の現れであろう。

図10. 校長先生によるDVD撮影のポイントの共有

[No. 5 - 4] DVD作成について

B教諭 2010/11/10 18:44:23

本日、12ポイントのDVD撮影が一応終わりました。3日に撮影した分で、校長先生にご指導頂いた分です。主に7ポイント、撮影の仕方に不備がありました。

ご指導頂いた内容を簡単にですが載せさせていただきます。

○石碑や新田など、写さなければいけないポイントだけを写さず、そのポイントがどの場所に位置しているのか、東西南北がわかるように撮影する。

○ナレーションが入るよう撮影時間に配慮する。

○石碑や新田などの写したいポイントの周り(全体)を写す

↓
ポイントをアップにして写す

↓
そこからさらにひいて写す(全体へ戻る)

○(7ポイントの場合、)北から南から撮ると、ポイント全体が入り、より東西南北がわかりやすい。

あとは、ナレーションですね。

今回の撮影は、ご指導いただく前に私たちが撮影してしまったので、さらに撮り直しと、二度手間になってしまいました。次のナレーションは、録音する前に必ずご指導いただきましょう。

図 11. DVDライターの使い方の共有

[No. 5 - 5] DVDライターの使い方
B教諭 2010/11/10 18:47:42
学校のDVDライターの使い方も、校長先生に教えていただきました。A先生も教えていただいたようで、とても便利なことに気がきました。
ビデオカメラを使った場合、すぐにデータは落とすようにとご指導いただきました。研究授業などの際に、ぜひお使いください。

図 12. DVDのタイトル画面



図 12 の画像は、若手教員が作成したDVDから抜き出したものであるが、できあがった作品は、児童や地域住民200名余りが集まった会場で披露され、好評であった。その反応に接して、若手教員の間で何かを作り上げる喜びを分かち合う充実感を得るとともに、次の活動への自信と意欲を高めてくれたようである。

(三木達也)

3. Google グループを活用した取組

第1節に述べたように、1学期には、若手教員が日々の教育実践上の問題点や悩みを書き込み、議論することによって、徐々に使い方に慣れることをねらったが、ログイン手順が煩わしいことや校務用コンピュータにおける機能制限もあり、活用率が上がらなかった。ところが、2学期に実施したサイバーラウンジとしての校内の掲示板が文書の添付ファイルの機能がないという問題に直面し、その補完として Google グループのホームページを再び使うことになった。したがって、ホームページについては、1学期に安藤先生が作成したものを基本的とし、運用ルールについても、ページのトップに記した次のようなルールを踏まえながら、研修担当である私(三木)が実質的な管理をして、活用することとした。

3. 1. Google グループの機能

Google グループは、グループ内のWEBページを作成する機能、メッセージの書き込みや返信ができる機能、文書ファイルや画像ファイルを共有する機能を兼ね備えており、メーリングリストとしても使えるメディアである。

図 13. 作成したGoogle グループのトップ画面



- 1) 「ディスカッション」による問題投げかけの仕方
 - ①教科指導や生徒指導に関する基本的で解決困難と思う問題を取り上げる。
 - ②取り上げようとする問題について何が争点かを考えて、「ディスカッション」をクリックする。
 - ③「ディスカッション」の「件名」に争点を記す。
 - ④「件名」の下にある空欄の一行目に自分の名前を書いた後、その問題を具体的に記す。
 - ⑤会話を入れたり、その時、自分が感じたりしたことを添えて、情景が分かるようにする。
- 2) 投稿された問題に対する対応の仕方
 - (a)似たような問題、興味ある問題をクリックする。
 - (b)最初に相手の名前、次に自分の名前を記す。
 - (c)自分の経験談や見聞きしたうまくいった事例を述べる。

なお、この対応案については、解決策である必要はなく、単に共感するだけでも構わない。

3. 2. 活用状況

Google グループは、一度グループに登録したメンバーのアドレスあてに電子メールを送信すれば、全員に配信されるので、その情報を共有することができ、また、学校内外を問わずグループのサイトに直接アクセスしなくてもメール受信ができるので、重宝さを実感し、授業研究や研修の度に1学期より頻繁に若手教員の間で活用されるようになった。

(三木達也)

4. 成果と課題

本研究は、電子掲示板を活用した若手教員の研修が主であり、副次的に Google グループのホームページを活用した実践である。成果と課題をまとめるにあたって、まず今回活用した情報手段を改めて整理しておきたい。

図 14 は、今回使用した情報手段と一般的なレンタルサーバー上に Web サイトを設けた際の機能を比較したものである。

図 14. 情報手段の比較

手段 機能	Google グループ	電子掲示板 付外	一般的な レンタルサーバー
Web	○	○	○
メルマガリスト	○	×	○
電子掲示板	ディスカッション 機能で代替	○	○
ファイル共有	メールで○	画像のみ○	○
アクセス制限	○	○	○
管理・運営	ブラウザ上 で編集	ブラウザ上 で編集	Web の知 識が必要

○学校内外からアクセスでき、しかも全ての機能を満たすには、レンタルサーバーの活用が最もよい手段であろう。しかし、管理・運営には Web に関する知識が必要であり、また、経費がかかる。

○Google グループは、無料で使用でき、Web の知識が無くても管理・運用ができる。しかし、電子掲示板の機能にあたるディスカッション機能への書き込みにはファイル添付の機能がないこと。また、書き込んだメッセージへの返信は、メール配信されるのみで、掲示板のようにやりとりを追うことができない。このことが、使いづらさを感じさせる要因になったのではないかと考える。

○今回活用した掲示板は、プロバイダーの制約により画像ファイルのみ添付可能な簡易版であったため、指導案等文書ファイルが添付できなかった。電子掲示板と Google グループ両方を開いての作業には、煩わしさを感じる。

それぞれの成果と課題は、次のように纏めることができよう。

4. 1. 問題の共有解決システムの成果

1) 若手教員の立場から

2 学期末、今回の取り組みについて感想を聞きだし、総じて好意的な結果が得られた。

まず、Google グループ、電子掲示板の両方の活用を通じて、全員から次のような成果を見出しうるといふ感想が出された。

①授業を公開したり参観したりする機会、指導案を検討する機会が増え、授業を公開することへの抵

抗感が軽減した。また、同世代の意見や先輩からのアドバイスによって、授業を進める上での自分のよさや課題に気づくことができた。

その他、次のような好意的な感想が寄せられた。

②同世代の先生方の授業を観ることで、自分の経験をふり返り、教職に対する思いを新たにしたり、今後目指す授業像を具体的に捉えたりすることができた。

③同年代の先生方と意見交換する中で、じっくり考えることができたし、多様な考え方があり、参考になった。

次に、若手教員の間での書き込みが活発であった電子掲示板については、次のような成果があったという感想を得た。

④同世代の意見交換だけでは、議論が膠着してしまい深まらない場合があったが、ベテランの先生方が適切なアドバイスで議論を整理したり、方向性を示してくださったりしたので、得心できることがあった。

⑤最初は書き込むことが億劫であったが、慣れてくると公開範囲も限定されているので気軽に考えを書くことができるようになった。

⑥会議の発言だと言葉を選びながら発言するので自信がないことなどは控えてしまうが、掲示板であれば書いたものを見直して考えを修正した上で発信できるので、考えをまとめやすい。

⑦授業研究では、1時間じっくり見ることができないと事後の研究会では発言しにくいのが、掲示板であれば短時間見ただけでもその場面に関する感想や意見を書きやすい。

2) 研修担当の立場から

⑧学年の担任構成がベテラン又は中堅教員と若手教員の組み合わせのため、学年内の打ち合わせ等では若手教員が受け身の姿勢になりがちなのが心配であったが、サイバーラウンジを導入することによりネットワーク上でも学校内においても同世代で相談する機会が増え、自発性・積極性が生まれ、若手教員の活気や自信に繋がってきている。

⑨サイバーラウンジを使用することで、個々の書き込みが記録として残るので、それぞれの教員の成長ぶりを評価しやすい。

⑩記録の蓄積がデータベースとなり、参加者のふり返りに生かされるだけでなく、新たに採用された先生方に対しても貴重な資料となるのではないかと

⑪同時に、記録は新たに加工してまとめ直すことも可能であり、研修資料やまとめを作成する作業が効率的に行える。

4. 2. 問題の共有解決システムの課題

1) 若手教員の立場から

や進め方などを整備しておく必要があるように思う。
(安藤輝次・三木達也)

引用文献

- (1) <http://www.newteachercenter.org/eMSS/menu.php?p=overview>(2011年1月23日確認)
- (2) <http://community.newteachercenter.org/tp/fas>
(2011年1月23日確認)

[注] 本研究は、平成 22 年度科学研究費補助金(基盤研究 (C)) (研究代表者：安藤輝次、課題番号：22530819) を受けて実施したものである。